

「他人事」ではない、「自分事」

ベテラン社員の労災は、20分に1回

■着実に増える「転落」「巻き込まれ」「熱中症」

「若い頃には当たり前のようにできた作業」でミスをしたり、

「若い頃にはできた」と油断したり無理をしたりして、

亡くなるケースが多い

2020/2/18 2:00

「労働者の高齢化が進む中、高齢ワーカーによる悲惨な労働災害は着実に増えている」と、労働当局の担当者は指摘する。

▼休憩室で横になっていたところ、近くにあったロールボックスパレットが倒れ、
下敷き死亡（製造業の60代）

▼金属部品加工の作業中、**回転中の切削刃に巻き込まれて死亡**（製造業の70代）

▼事務所の庭木の剪定（せんてい）作業中に**バランスを崩し、脚立から地面に墜落して死亡**（保険業の70代）

▼天井クレーンの操作ボタン調節のため、**点検台（地上高7m）で作業、落下して死亡**（製造業の60代）

▼木製の**足場**を掛けて作業をしていた際、**バランスを崩し地上まで約9メートル落下し死亡**（建設業の60代）

▼フォークリフトのカウンターウエイト（装置が安定するように設置された重り）の上に上っていたところ、ふらついて後ろ向きに倒れ、地上に**転落し死亡**（貨物業の70代）

▼事業所内の庭の**草刈り**の作業中、倒れたところを発見される。**熱中症**によるものと思われる（広告業の80代）

これらは、この1、2年で東京・大阪で起きた労災死亡事故の一例にすぎない。

厚労省によると、60歳以上の男女が労災事故に遭った件数（今統計では10歳刻みでのみ集計）は、18年時点で10年前と比べ**1.5倍に増えた**。

社会の**高齢化**で、働く**高齢者**自体が増えたことが大きい。

今では、すべての労災事故のうち**4人に1人が60歳以上**とされ、その数は全国で**3万3,000件**超に上る。

単純計算で1日あたり3.3万件÷365日=約90件/日、つまりは**20分に1人以上**の高齢労働者が**全国のどこかで事故**に巻き込まれている計算だ。

目立つのは、**高所からの転落**による**墜落死**と、機械の操作ミスによる**挟まれ・巻き込まれ**のほか、**熱中症**を中心とする「**高温低温環境での死亡事故**」だ。

偶発的な不幸な事故というよりも、「若い頃には当たり前のようにできた作業」でミスをしたり、「若い頃にはできた」と油断したり無理をしたりして、亡くなるケースが多いという。